

令和6年度 第1回鹿児島市清掃事業審議会 会議概要

【日 時】

令和6年7月9日（火） 14時00分～15時45分

【場 所】

市役所西別館2階 201会議室

【出席委員】

井上委員（会長）、永徳委員、川崎委員、倉元委員、末永委員、田尻委員、
鶴田委員、平委員、三原委員、宮竹委員、柳井田委員、山崎委員、吉原委員

【会 次 第】

- 1 開会
- 2 環境局長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 会長・副会長選出
- 5 議事
 - (1) 報告事項
 - ①第四次一般廃棄物処理基本計画に基づく令和5年度実施状況について
 - ②令和6年度資源循環部事業概要について
 - (2) その他
- 6 閉会

【会長、副会長選出について】

会長 井上 佳朗 委員（鹿児島大学 名誉教授）
副会長 三原 美智子 委員（鹿児島市衛生組織連合会 副会長）

【議事概要】

① 第四次一般廃棄物処理基本計画に基づく令和5年度実施状況について

委 員：今後の家庭ごみ量の目標である437グラムに向けて、ごみ減量の広報活動や、大崎町で実施している廃食油の活用を行えないものか。

事務局：インターネット等を活用した広報活動は令和6年度も実施していく。廃食油は環境未来館や市民団体が実施している資源物回収活動で回収しており、大崎町の事例についても研究を重ねて参りたい。

委 員：プラスチック資源循環推進事業の検証結果はどのようなものか。

事務局：プラスチック製品とプラスチック容器類の区別が分かりにくいとの意見があった。また、プラスチック製品の資源化には、非常にコストがかかることが分かった。

委員：まごころ収集の戸別収集の実利用世帯数はいくらか。

事務局：令和6年3月末で642世帯である。

委員：北部清掃工場ごみ焼却施設基幹的設備改良事業では、どのくらい焼却施設を延命できるのか。また、埋立処分場では何年先まで埋め立てられるのか。

事務局：焼却施設は10年延命でき、埋立処分場は、あと70年埋め立てられる計算となっている。

委員：剪定枝収集量減少の要因は何か。

事務局：粉碎機の貸し出しや粉碎機の購入費補助により家庭で処理したり、民間の収集業者が出てきたりしており、それらの影響と考えられる。

② 令和6年度資源循環部事業概要について

委員：資源物回収活動補助金について、古紙類の回収量補助の単価を増加し、実施回数補助を廃止した経緯は。

事務局：実施回数よりも回収量に対し補助をしていこうという考えによるものである。

委員：プラスチック資源循環推進事業について、対象地区への周知方法はなにか。

事務局：町内会への周知と各家庭へのポスティングを行う。

委員：コンポストの補助について、土の菌など生物分解のコンポストは補助の対象なのか。また、焼却灰の処理はどのように処理しているのか。セメントなどにリサイクルすることも可能性の1つと思われる。

事務局：EM菌のコンポストは補助の対象となっている。焼却灰の処理は、安全に処分できるような薬品を混ぜ、処分している。また、セメントへのリサイクルについては、コストがかかり、難しいところである。

委員：ごみ収集業務委託について、今後、委託の範囲を広げる考えはあるのか。また、契約のやり方は、どのように行うのか。

事務局：今現在は委託範囲を広げる計画はなく、広げる場合は入札を行う。

委員：カラス対策事業について、令和6年度の予算額が減少しているが、カラスの被害は落ち着いてきたのか。

事務局：令和4年度と令和5年度に行った実証実験が終了したため、減少している。引き続き、ごみステーションの整備補助やネットを被せるなどの対策を行っていく。

委員：食品ロス削減マッチングサービス導入事業について、どのような状況か。

事務局：現在、サービスを提供する業者が決まり、これから店舗を回り、登録を依頼していくこととなる。